

練が第一であるが、食事中お湯の呑み方も注意を要するし、殊に御飯とおかずとの順々な喰べ方も必要な注意であらう。一體に斯うした訓練は、我國の近來ではおどなにも甚しく缺けてゐる。

食事中の話あひに就ては、いろ／＼の説があり、絶對にだまつてゐるのがいゝとされることさへあるが、それも會食としてせうであらうか。寧ろ適當に話あふのもいゝと思ふが、それ故にこそ訓練があるのである。「食物が口にある間は話をせぬこと」といふのも、其の一つである。之れさへ守られれば、大體楽しく話あひつゝ、食事が出来る筈である。

「こぼさぬ」といふのは、初めの中は多少むづかしい要求かも知れないが、お辨當の時こそは可なり強い訓練を要求していゝであらう。それは、食事といふ、本能さへ加はつてゐる具體の生活、楽しい生活であるから、こういふ時にこそ、形式を形式として要求してゆく場合の如き無理は滅多に起らないからである。それに我國の家庭生活では、食事の訓練が甚だしつかり行はれてゐない。ほとんど皆粗野といつていゝ位である。幼稚園ではしつかり、小さい紳士淑女として食事させたい。他の時間、遊んでる時、仕事をしてゐる時は、そんなに紳士淑女主義を重んじやうとは思はない。時には相當の野ばん性も許されていゝことかどさへ思ふ。だからこそ食事の時は、しつかり作法的であつてほしい。先づ手を洗ひ、靜に座し、手を膝に置き、暫らくは沈黙もし、「兵隊さん有り難うございます」でも、「いたゞきます」でもいゝから食前の感謝を一齊に唱へて、靜かにしかし楽しく、品位よく食事する。お辨當の時間だけは決して粗野下品野ばんであつてはならない。決し

てならない。

### 自由遊戯

#### 上遠文子

空は青天井。爽やかな風が子供達の裾をゆるがす五月となりました。年少組の子供達も大分幼稚園の生活に馴れて來、入りまじつてお庭の中を駆けまわつてゐます。何と云つても此自然の中で、日光を浴びつゝ戸外あそびの日に／＼盛になる時でありませう。お家の中でくすぶつてゐる子供達も、お日様がにこ／＼と、待つてゐて下さる戸外へ誘ひ出させよう。一杯に日光を浴びて好い空気を吸つて、すく／＼伸びる子供達の體の中には健康の血が駆け廻る事せう。

さくら／＼ 昔から、童歌や琴歌として、日本特有のこの歌も、今でも尙、子供達の間で歌はれてゐる。二人で綺麗な櫻のトンネルを作りませう。その二人は先に、地獄、極樂をきめ、又何が好きなもの、りんごでも梨でも好い、きめておく。

さくら／＼

やよひの空をば  
みわたす かぎり

いざや／＼もろどもに

うめには驚、ほうほけきよ。

この歌を歌ひつゝ他の人はこのトンネルをぐる／＼まはりつゝくぐる。「ほうほけきよ」でそのトンネルをおろし、その時トンネ

ルをくゞつてゐた人をつかまへて、「りんごと梨とどつちが好き」好きな方のトンネルの人の後についてまつてゐる。次々どさうして皆、どちらかについてしまふと、地獄の人は、トンネルの両手つないだ中に入れてゆする。

地獄、極樂、えんまさんはこわい

もう一つおまけに針の山にとんでゆけ。

極樂の人は両手で手の車をつくりそこに乗せてゆする。

地獄、極樂、えんまさんはやさしい

もう一つおまけに一、二、三

子供達の歌つてゐるのを引いてきただけでそれ／＼の方法で違つてゐられる所もございませう。年長組とまさつてするものも又面白い事です。

駆っこ リレー遊び 小さい子供達から大人までに行はれる、

そして誰がしても其處に面白味のある遊びである。幼児達にも實におもしろく又身心發達にも大いに好い遊びとして、私達も種々とその指導法を工夫せねばなりません。

年少組としては最初のうちは、七八人づつ、お庭の木をまはつてきたり、何かものにさわつて歸つて来る程度で相當面白く遊べる。極く最初は先生も共に走り、勵ましつゝ進めてゆくのが好ましいと思ひます。それにも大分なれて來ると、唯走るのも面白くない大きい人達のしてゐる仲間入りをしたりしてリレーが始まる。二手にわけて、バトンがあればよいがなければ手に觸るとかハンケチとかを用ひて次の人に變る。「○○ちゃんしつかり」と應援も賑やかに仲々面白いものであります。何れにしても、途中

で負けるとやめたり、人をおしのけて走つたり、その他ずるい事をしない様、即ち運動精神と申しませうか、その時々、注意し訓練を忘れてはなりません。

相撲遊び そろ／＼夏場所の季節となつて參りました。子供達の間でもお相撲の話が盛になつて來ます。手技で作りし紙の力士を何か箱をさかさまにした上にのせてトン／＼「このこつた／＼／＼」と叩きますと紙の力士はおもしろおかしく取組んでせりあひます。と何れかがころりとたはれると負け。各自、自分の力士に名前をつけ友達同志取組ませます。トン／＼／＼、屋

から太鼓の様に賑やかな幼稚園夏場所風景です。次第に好調して來、紙力士ではものたりなく、豆力士はお互ひに立上りました。僕は武藏山、僕は磐石とそれ／＼自分の力士の名をきめ、點取表に記してゆきます。呼出、行司等ももう年長になると仲々道に入つたものです。お砂場でお庭の土の所で、雨の日はお部屋で、行はれます。軍配も手製のボール紙のでよいから一つ用意します。これは仲々危険なともなふ遊びですから必ず先生は其處でみていなければなりません。

なわとび これも全身の運動として、楽しまれてゐる遊びの一つ。一人でどぶ、二人で。又二人で持ちその中をどぶ。おまわし、お波、一段二段、等と云つて種々面白く遊ぶ。繩を二重にして二人で高くもち川に落としつこといつてその間を落ちぬ様通ればよいとか又次第に細い筋を繩につかぬ様通る等面白いものが澤山ある。

猫と鼠遊び 猫と鼠をきめ、猫は圓の外、鼠は圓の中にある。

圓の人は、

猫の子、子猫名はおすゞ

おすゞやおすゞ 靜かに行つて鼠取れ

と歌つて、歌ひ終ると猫は鼠を追ひかける。圓の人は鼠がうまく逃げられる様ふさいだり通してやつたりしてゐる。つかまると次の人と變る。時々圓の人が猫を通したりするとそれ大變、鼠は大あわてです。

これは二三の遊びに過ぎませんが、お砂場に、ぶらんこに、すべり臺と、子供達は駈けまはり、偉大なる自然の中に、此好き季節を樂しみたいものであります。

遊

戯

### 古澤 静子

五月。緑したゝる青葉若葉に初夏の陽光がそゞがれ、そよ風に藤の花がゆらぐ。菖蒲の花も開きました。勝利の日本をよるこび、輝かしい前途を持つ男の子を祝つて、青空高く鯉のぼりが泳いで居ります。

窓を開きませう。

若葉の香りは、微風と共に、子供達のほゞのあたりに漂ひます。

駈けた後、歌つた後、しつとりと汗ばんだ後の心地よさを感じてゐるのはこの頃でせう。スキップの愉快を味ひ、音と共に限られた時間内に限られた運動をする事の合理的な面白さを、或はお

互ひに連手して他と同じく前進後退することの難しさを體得はじめるのもこの頃でありませう。

前月は、團體訓練への第一歩として、極く基礎的動作より成る、二三の遊戯を致しました。五月と申しましたが、まだ日も淺い一月後でありまして、前月に依つてすつかり基礎が、出来る筈のもので御座いませんで、この月も前月の延長と考へまして、是等の基本的な動きの上に、更に枝葉を伸ばしてゆき度いと思ひます。即ち部分的な動作より全身的なものへ、直線より曲線へ、又個々の動作に就きましても、單的な表現より、稍々複雑な表現のものへと進み度いと思ひます。然し勿論、前月のものに基づいたしました上に、展開するものでありますから、四月の繋りとして、漸次的進行をはかりたいと思ひます。

あなたのまね(日本幼稚園協會發行「遊戯の歌と曲」所載)

全生、圓形を作り、指導者を一人圓内に入れ、その指導者の動作表現を全生が眞似するのです。

「一小節—四小節まで」全生、圓の左又は右をむき曲に合はせて歩きます。圓内の指導者は皆と反對の方向に歩きます。

「五小節—八小節まで」そのまゝスキップで繼續します。

「九小節—一十拍目の音で皆、止まり、圓内の指導者は、そこで自由な表現をし、次の二拍目は、皆休止。三拍目に全生は圓内の者が行つたと同様の表現を行います。

はじめは、先生に指導者となつて圓内に入つていたゞきませう。之は瞬間的にその場で行ふ表現でありますから、簡單なもの